東広島医療センター　呼吸器グループ

Updated Topics and Report (20th issue)

平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。
東広島医療センターの呼吸器グループは、広島中央医療圏において診療に携わっておられる先生方へ定期的に“***Updated Topics and Report***”をお届けしております。

当グループは地域医療機関の先生方から多くの患者さんをご紹介頂き診療実績を積み上げてまいりました。新型コロナウイルスに対する診療に対しては大きな変化を迎えましたが、グループ全体として先生方や地域住民に信頼していただける医療を今後も提供できるよう診療レベルの向上に努めていくとともに、情報発信も行っていきたいと考えております。

ご多忙中のところと存じますが、本誌を診療の合間にお読みいただければ幸いです。

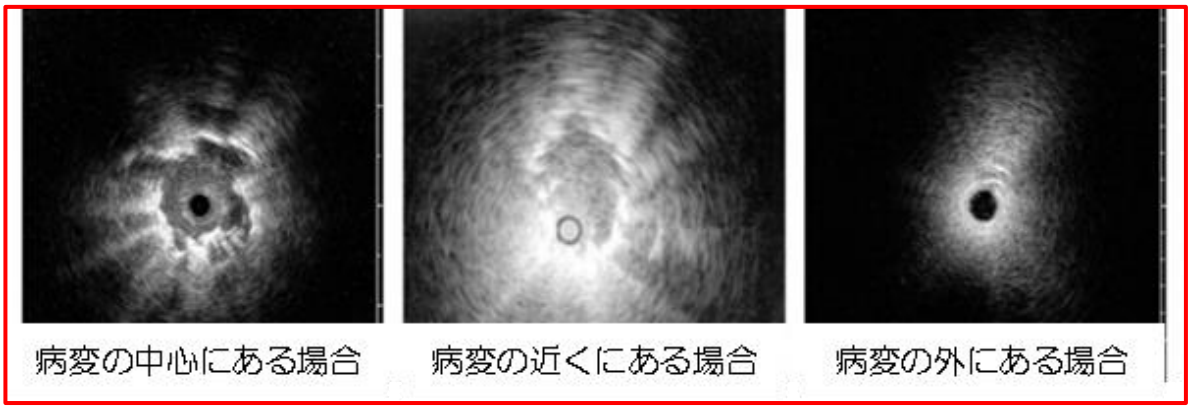
本号は『**ガイドシース併用気管支腔内超音波断層法による経気管支針生検**』のご紹介、および『**術前放射線化学療法中、急速に増大し準緊急での手術となった右肺尖部胸壁浸潤肺癌**』の症例報告です。

2023 年 10 月

➢ ガイドシース併用気管支腔内超音波断層法について

肺癌などの病気が疑われた場合、確定診断のために気管支鏡検査を行います。従来からの X 線透視を用いた肺生検の方法では、多くの場合で病変そのものを気管支鏡で直接観察することができずに盲目的な生検となります。従ってこの従来法での正診率は高いとは言えず、より正診率を向上させる必要があると考えられてきました。現在当院では、生検しようとする病変の中に気管支を通してガイドシースという鞘を留置し、ガイドシースの中を通って病変の生検を行う EBUS-GS（Endobronchial ultrasound-guide sheath)と呼ばれる検査を施行しています。

ガイドシースの内部を通して超音波プローブを挿入し、ガイドシースの先端が病変の中にあることを直接確認した上で生検するため、病変から確実に繰り返し生検を行うことができ、正診率が向上します。また生検で起こる出血に対する止血処置が容易になるという利点もあります。より安全で確実な診断を目指して、今後も積極的に本法を実施していきたいと考えています。

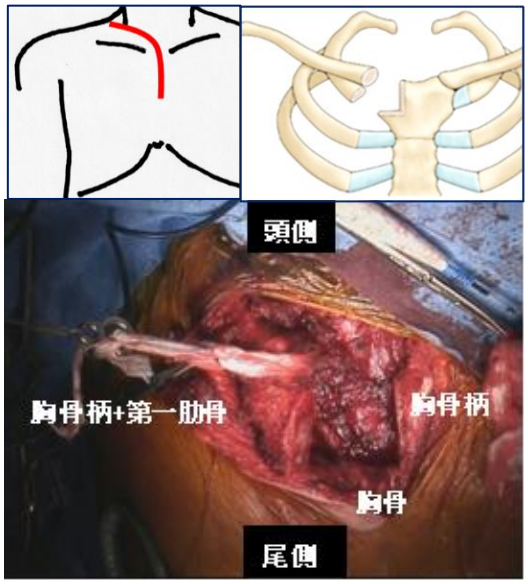


➢ 術前放射線化学療法中、急速に増大し準緊急での手術となった右肺尖部胸壁浸潤肺癌

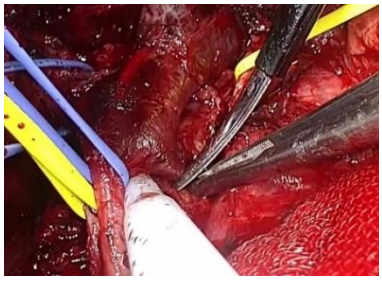
（症例） 50 代の男性。血痰を主訴に前医を受診し、胸部単純写真で右肺尖部に浸潤影を指摘され、当院呼吸器内科に紹介となった。

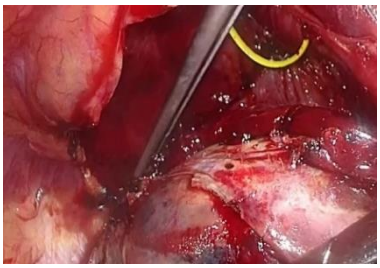
（画像所見） 胸部 CT で右肺上葉に最大径 41mm の胸壁頂部への浸潤が疑われる腫瘍を認めた**（左図）**。PET-CT では SUVmax: 39 と集積を認めたが、遠隔転移は認められなかった。気管支鏡検査での組織診断では悪性所見を得られず、細胞診で上皮性悪性腫瘍と判断された。

（呼吸器グループカンファレンス） 非小細胞癌として術前放射線化学療法を開始した。開始後数日で血痰の減少を認めたが、胸部 CT にて腫瘍は 61mm 大と急速な増大を認めた**（右上図）**。治療抵抗性であること、今後の化学療法使用薬剤の決定に必要な遺伝子検査のため十分な検体が必要なことなどを考慮し、準緊急での手術を行う方針となった。



（手術所見） 胸腔鏡を挿入し胸腔内を観察したところ、播種性病変はなく、肺尖部において胸壁や血管および神経への浸潤が疑われた。右鎖骨と胸骨右上一部を切離することで右肺尖部から頚胸境界領域にかけての各種血管・神経に対する手術操作が可能となる TMA（Transmanubrial Approach）併用での手術を施行した**（左図）**。TMA の手術野において、腫瘍が浸潤した胸腔頂部の胸壁において、各種血管（鎖骨下・腕頭動静脈）・神経（横隔神経、迷走神経）を剥離し**（右上図）**、腫瘍が浸潤した壁側胸膜を右上葉と合併切除し**（右下図）**、病変を一塊に摘出した。





（病理組織学的所見） 壁側胸膜脂肪織まで浸潤し、腫瘍内出血（急速増大の一因）を伴った多形癌 (ypT4N0M0 ypStageⅢA)と診断され、MET Exon 14 Skip が検出された。

（考察） 術前放射線化学療法中、急速に増大した右肺上葉原発で肺尖部胸壁に浸潤した多形癌に対して、準緊急での手術が行われた 1 例。高難度手術により完全切除が達成され、術後は合併症なく経過し、術後補助化学療法も行われた。また切除標本を用いた遺伝子検査により、個別化医療に繋がるまれなドライバー遺伝子変異も同定することができた。**呼吸器グループの綿密な連携に加え、麻酔科・手術室スタッフの協力による　準緊急手術実施という病院総力を挙げた対応**が功を奏した 1 例と考えられた。

東広島医療センター呼吸器グループは、**最高レベルの医療を提供できるよう、充実したスタッフによる最良の診療**を心掛けてまいります。また**原則としてご紹介いただいた患者さんは、ご紹介元の先生に逆紹介するよう心がけております。**東広島医療センター呼吸器グループに対するご意見・ご不満・ご質問・ご感想、またお知りになりたい情報等ございましたら担当医もしくは地域連携室までご連絡ください（地域連携室 FAX：082-493-6488）。